

令和 7 年度

教育委員会点検・評価報告書



「かねやま小 開校式 4.7」



「かねやま小 田植え 5.27」



「金山中 外部講師による授業 9.8」

令和 8 年 3 月

金山町教育委員会

はじめに

金山町では、2021年から2030年までの10年間を期間とする第五次金山町総合計画を策定しています。そのまちづくりのキャッチフレーズである「自然の恵みと 笑顔あふれる かねやま～思いやり 支えあいのまち～」を目指し、基本目標3の「自然と共生し郷土を愛するひとづくり（教育・文化）」に基づき、金山町教育目標を「郷土を担う心豊かな人間の育成」としました。

そして、令和7年度金山町教育委員会重点施策を四つの基本目標である「郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成（学校教育）」「生きがいに満ちた生涯学習の充実（生涯学習）」「町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実（生涯スポーツ）」「次世代につなぐ伝統文化の振興（伝統文化）」と設定し、さらに、主要施策を学校教育で9点、生涯学習では7点、生涯スポーツでは5点、伝統文化では5点を掲げて取り組んで参りました。

教育委員会の点検・評価については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律」により、「教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。」とされています。

点検・評価の対象は、教育委員会の活動状況及び金山町教育委員会重点施策の二つの面にしぼり、点検・評価者は、教育行政外部評価委員会を設置し、委員には学識経験を有する方をお願いし、意見を聴取するとともに、教育委員会事務局が点検・評価を行いました。

令和7年度点検・評価の報告書ができあがりましたので、金山町議会に報告しますとともに、広く町民の皆様にお知らせします。町民の皆様からの忌憚のないご意見をいただきながら、令和8年度以降の金山町教育行政の一層の充実と発展に役立てていきたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

令和8年3月

金山町教育委員会

目 次

I 教育委員会の活動状況

1. 教育委員と任期	1
2. 教育委員会の開催状況	1
3. 教育委員会の開催日及び審議内容	1
4. 教育委員の主な活動	3
5. 教育委員会広報活動	3
6. 教育委員会事務局体制	4
7. 活動の反省と今後に向けて	4

II 教育委員会重点施策点検・評価

1. 郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成（学校教育）の点検・評価	6
2. 生きがいに満ちた生涯学習の充実（生涯学習）の点検・評価	1 5
3. 町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実（生涯スポーツ）の点検・評価	1 8
4. 次世代につなぐ伝統文化の振興（伝統・文化）の点検・評価	1 9

III 教育行政外部評価委員の感想及び意見

1. 教育委員会の活動について	2 0
2. 学校教育の分野について	2 0
3. 社会教育の分野について	2 0

IV 資料

1. 金山町教育委員会の事務管理及び執行状況の点検・評価要綱	2 1
2. 点検・評価内容	2 2
3. 教育行政外部評価委員会	2 2
4. 法的根拠	2 2

I 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員と任期（令和8年1月1日現在）

職 名	氏 名	委員番号	教 育 委 員 の 任 期
教 育 長	押 部 秀 隆		令和6年8月1日～令和9年7月31日
委 員	大 竹 勤	1 番委員	令和7年10月1日～令和11年9月30日
委 員	小 沼 優	2 番委員	令和4年10月1日～令和8年9月30日
委 員	渡 部 佳 恵	3 番委員	令和5年10月1日～令和9年9月30日
委 員	渡 邊 明 美	4 番委員	令和6年10月1日～令和10年9月30日

2 教育委員会の開催状況

	定例会	臨時会	計
開催回数	12回	1回	13回

※ 町教育委員会規則により、定例会は、原則として毎月1回開催し、必要かつ緊急を要する場合は、臨時会を開催することになっている。

3 教育委員会の開催日及び審議内容

月	日	曜	種 別	議案番号	件 名 (内 容)
4	25	金	第5回 定例会	第15号 その他の協議① その他の協議②	○金山町学校保健委員会設置要綱の一部改正について ○令和7年度川口高校学生寮の状況について ○令和6年度教育委員会点検・評価について
5	23	金	第6回 定例会	第16号 第17号 第18号 その他の協議① その他の協議② その他の協議③ その他の協議④ その他の協議⑤	○金山町中学校部活動指導員人材バンク設置要綱の制定について ○金山町教育支援委員会委員の委嘱について ○令和7年度金山町一般会計補正予算について ○令和6年度教育委員会点検・評価報告書について ○令和7年度金山町の教育について ○令和7年度金山町教育委員会要覧について ○福島県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会春季総会について ○東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会及び定期総会について
6	26	木	第7回 定例会	第19号 第20号 その他の協議① その他の協議②	○地域一体型ふるさと教育事業支援に関する規則の一部改正について ○金山町いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ○東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会及び定期総会について ○福島県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会について

				その他の協議③	○福島県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会について
7	23	水	第8回 定例会	第21号 第22号 第23号 第24号 その他の協議① その他の協議② その他の協議②	○令和8年度使用小学校教科用図書の採択について ○令和8年度使用中学校教科用図書の採択について ○金山町文化財調査委員の委嘱について ○金山町立学校における団体徴収金及び学校徴収金事務取扱要綱の制定について ○福島県市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会について ○福島県市町村教育委員会連絡協議会教育委員・教育長研修会について ○金山町いじめ問題対策連絡協議会について
8	26	木	第9回 定例会	第25号 その他の協議① その他の協議②	○令和7年度金山町一般会計補正予算について ○各種大会の結果について ○教育委員学校訪問について
9	25	木	第10回 定例会	第26号 第27号 その他の協議① その他の協議② その他の協議③ その他の協議④ その他の協議⑤	○福島県立川口高等学校資格取得支援事業実施要綱の一部改正について ○金山町沼沢公民館長の解任について ○金山町教育委員会委員の任命に関する議会の同意について ○金山町教育委員会教育長職務代理者の指名について ○各種大会の結果について ○教育委員の学校訪問について ○令和7年度市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会について
10	16	水	第11回 定例会	その他の協議① その他の協議②	○教育委員学校訪問の結果について ○金山町総合教育会議の開催について
11	27	木	第12回 定例会	第28号 その他の協議①	○令和7年度金山町一般会計補正予算について ○金山町総合教育会議の結果について
12	17	水	第13回 定例会	その他の協議① その他の協議② その他の協議③	○令和7年度第1回金山町教育行政外部評価委員会について ○第45回金山町の教育を語る会について ○第42回私の言いたいこと発表会について
1	29	木	第1回 定例会	その他の協議① その他の協議② その他の協議③ その他の協議④	○令和8年度川口高等学校入学生の学生寮入寮志望状況について ○第45回金山町の教育を語る会について ○第42回私の言いたいこと発表会について ○令和7年度金山町立学校卒業式について
2	27	金	第2回 定例会	第1号 第2号 その他の協議① その他の協議② その他の協議③	○令和8年度金山町一般会計予算について ○令和7年度金山町一般会計補正予算について ○令和7年度教育委員会点検・評価報告書（原案）について ○金山町立学校の教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画（案）について ○令和8年度川口高等学校入学生の志望状況について

3	3	火	第3回 定例会	第3号	○金山町立中学校長人事について
3	24	火	第4回 臨時会	第4号 第5号 第6号 その他の協議① その他の協議② その他の協議③ その他の協議④	○金山町公民館運営審議会の委嘱について ○金山町社会教育委員の任命について ○金山町社会教育委員の任命について ○本名・沼沢・横田公民館に館長を置かないことについて ○令和8年度金山町教職員人事異動について ○令和6年度金山町教育委員会点検・評価について ○今後の教育委員会の予定について

4 令和7年度 教育委員の主な活動（教育長のみの行事、活動は省略する。）

月	日	主 な 行 事 ・ 活 動	備 考
4	2	教職員着任式	3階大会議室
4	7	かねやま小学校入学式・開校式 金山中学校入学式	かねやま小学校 金山中学校
5	30	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会春季総会・研修会	金山町開発センター
7	10	東北六県市町村教育委員会連合会教育委員・教育長研修会	いわき市
7	29	市町村教育委員会連絡協議会会津ブロック研修会	磐梯町中央公民館
8	15	令和7年度金山町二十歳のつどい	3階大会議室
9	3	金山町いじめ問題対策連絡協議会	1階会議室
10	16	教育委員会学校訪問	各小中学校
10	22	県市町村教育委員会連絡協議会両沼支会秋季総会・研修会	昭和村公民館
12	17	金山町総合教育会議	1階会議室
2	15	第42回私の言いたいこと発表会	ゆうゆう館
2	17	第45回金山町の教育を語る会	3階大会議室
3	13	金山中学校卒業証書授与式	金山中学校
3	23	かねやま小学校卒業証書授与式	かねやま小学校

5 教育委員会広報活動

- (1) 広報かねやま----- 随時、生涯学習や教育委員会活動関係記事の記載
- (2) お知らせ文書----- 随時、行事開催や事故防止等

6 教育委員会事務局体制

- 教育次長 1 ・ 教育係長 1 ・ 教育係 4 ・ 社会教育指導員 2 ・ 協力隊 1 の計 9 名

7 活動の反省と今後に向けて

(1) 教育委員会について

教育委員会は、定例会臨時会を含めて年 13 回開催してきた。内容については規則、予算や人事に関する議案の協議が中心であったが、ほかに小中学校の学校教育での学力向上や教育支援、若桐寮・学校寮についての問題等、多方面にわたる協議や情報交換を図ってきた。

(2) 小学校の統合について

小学校の統合問題については、平成 21 年度に中学校が統合され、令和 4 年度の 1 月に「小学校統合に向けた教育委員会の基本的な考え方」「金山町立小・中学校統廃合に関する基本構想・基本方針」を示し、小学校保護者や住民に説明会・意見交換を行ってきた。令和 5 年度の 9 月議会に小学校統合の議案を提出し、議決していただき、令和 7 年 4 月 1 日からの統合が決定した。

令和 5 年 10 月には、「金山町立小学校統合準備委員会」を立ち上げ、21 回の準備委員会を開催し、学校名を「かねやま小学校」とし校歌や校章を決定した。また、学校経営部など 5 つの部会を立ち上げ部会ごとに進め、開校に向けて児童が希望をもって学校に通えるよう、諸準備を進め令和 7 年 4 月に開校した。

(3) 新型コロナウイルス感染症対策について

新型コロナウイルス感染症については、令和 5 年 5 月に 2 類から 5 類への移行となった。学校生活の中での多くの制限もなくなり、コロナ以前の状態に戻すことができ、元気にのびのびと生活できるようになった。今後も継続し、注意していかなくてはならない。

(4) 学校教育について

学力の向上については、全体的には良好といえるが、学力差も学年が進むに伴って大きくなっており、教科によって課題も出てきている。「全国学力テスト」「ふくしま学力テスト」等の結果を分析し、一人一人の陥没点を明らかにすることにより改善を図りたい。何よりも極少数人数の中、一人一人の伸びをつかむことのできる「ふくしま学力テスト」は有効と思われるので、各学校の指導に生かしていきたい。

また、今年度より事実や根拠に基づいて書かれた文章（教科書や新聞、説明書など）の意味や内容を正確に理解する力をつけるために、リーディングスキルテスト（R S T）を実施し基礎的・汎用的読解力を身につけさせていきたい。

I C T機器の活用については、指導員を配置していることにより、先生方の活用が進んでいる。具体的な授業での活用についても、指導を受けることができるので、先生方のI C T機器の活用能力が高くなっている。今後は、使えるだけでなく子どもたちの学力の向上に向けて効果的な活用を進めていきたい。

また、児童・生徒の学力向上には、教師の指導力の向上が大切であるため校外研修などの研修に積極的に参加して、授業力を高めるために研鑽をするようにしている。

（５）今年度の事業について

旧五十島家住宅の屋根葺き替え工事については、昨年度全面葺き替えを行い、家の耐久性を高めるために、週に１回程度燻す作業（燻蒸）を行っている。今後は、旧五十島家住宅の特徴などを住民や観光客等に広く周知し、文化財への関心を高めたいと思う。

自然教育村会館の活用・活性化については、「過去を知る」「未来を創る」「交流する」事業を行い、民具整理ワークショップ、展示室のリニューアルに向けた整備、おくあいつ金山手づくりマルシェへの支援を実施した。

Ⅱ 教育委員会重点施策点検・評価

【基本目標1. 郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成（学校教育）についての点検・評価】

※ 評価は、次の4段階とする。

A＝大いに達成 B＝達成に近い C＝達成まで努力を要する D＝達成まで大いに努力を要する

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
1	確かな学力の育成	(1)少人数のよさを生かした授業を推進し、確かな学力の定着を図る。	① 金山町学力向上推進会議の推進 ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得 ③ 思考力・判断力・表現力の育成 ④ 主体的に学習に取り組む関心・態度の育成 ⑤ 各校の現職教育の充実 ⑥ 町指定による研究推進 ⑦ 小・中・高連携事業の推進・授業研究会	○ 小規模市町村指導主事派遣事業を活用し、会津教育事務所指導主事による授業参観と指導助言をいただいた。また、現職教育の充実を図り、1人1授業の授業提供をし、校内研修と授業改善を図った。 ○ 「学びの18年」を柱に「主体的に学習に取り組む態度」や「思考力・判断力・表現力の育成」に努めた。 ○ 研究公開を開催し、協議や情報交換を行い授業改善に努めた。 ○ RSTの視点による授業改善についての研究をスタートさせることができた。 ○ 本校の研究テーマ「自己肯定感を高める指導の工夫」にもとづき、具体的な実践を行うことができた。	B
		(2)個に応じた指導に努め、個性の伸長を図り自分に自信の持てる子どもを育成する。	① 自信と誇りに繋がる真の力を身につける個への対応 ② 競い合いや切磋琢磨など学び合う場と機会の設定 ③ 一人学びの時間の確保 ④ 個人カルテの作成と活用	○ 児童の発表に対する苦手意識を取り除くため、校内で学力向上プロジェクト会議を開催し、自分の考えを相手に伝えることができるような「発表・対話のしかた」話型を作成した。今後も個別最適化された学びの実現から学力の向上につなげていきたい。 ○ 少人数を生かし、授業やPUS、諸活動において、個に応じた指導を行い、自己肯定感を高めることができた。 ○ 基礎学力コンテストを通して、達成感や成就感を味わわせることができた。	B
		(3)家庭との連携による家庭学習の習慣化を図り、主体的な学習態度を育成する。	① 学校だより、学年だより、授業参観、学級懇談などを通しての学校での学習と家庭学習との関連 ② 学習の手引き「みかぐら」の活用 ③ 家庭学習に関する教育相談（学習カウンセリング）	○ 各教科担任による家庭学習が出題されているが、学校評価アンケートでは、家庭学習に関する項目の評価が低かった。更なる取組が必要であると感じ、家庭への啓発を継続していく。 ○ 学校だより、学年通信、授業参観、学年懇談等を通して、授業と家庭学習との関連を意識させることに努めた。 ○ 「みかぐら」を活用し、年度当初に学習ガイダンスを実施し、指導を継続した。 ○ 家庭学習等、主体的な学習ができる生徒が徐々に増えてきているが、今後も継続して指導にあたる必要がある。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
2		(4)学力テスト等の分析と活用を図る。	① 全国学力・学習状況調査 ② ふくしま県学力調査 ③ N R T 学力テスト ④ リーディングスキルテスト	○ 各種テストの結果・分析をもとに、日常の授業で個々の達成度や意欲や理解の度合いをきめ細かくみとり、教科ごとに授業工夫改善を行った。 ○ R S T の結果を全職員で共有し、その視点から個々の支援を行うよう務めた。	B
		(5)新学習指導要領に基づいた教育を推進する。	① 生きて働く「知識・技能」の習得 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成 ③ 学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性等の涵養」 ④ 「主体的・対話的で深い学び」の推進	○ 今年度の現職教育のテーマを「共に学びを深めあう子どもの育成」とし、研究の視点を3つに絞り、主体的に考え友達や教師と対話することによって、考えを深めたり広げたりできるような授業展開に努めた。 ○ 学習指導要領に基づいた教育活動を行っている。今年度は免許外指導として、町雇用の職員を配置していただき大変助かった。 ○ 生徒の問いを生かした、キャリア教育を推進してきた。生徒達は主体的に学びに向かうことができた。	B
	〈特別支援教育〉	(6)特別支援教育の研修を深め、個別支援教育指導計画の作成・活用を図る。	① 特別支援教育研修の機会の設定 ② 個別支援計画の作成と実践	○ 特別な支援が必要な児童について、個別の支援計画を作成し、職員間で理解を図ってきた。また、支援員と担任との連携も意識し、どのように支援していくかを明らかにしながら進めてきた。 ○ 通常学級における特別な支援が必要な生徒に対して S C のアドバイスをもとに適切に支援を行うことができた。 ○ 町による支援員の配置で一人一人の児童・生徒に目が行き届いた。	A
		(7)全職員共通理解のもと、心身に障害や学力不振等のある児童生徒については、個別指導計画を作成し、個に応じた指導にあたる。	① 校内支援委員会の定期的な開催 ② ケース会議の開催 ③ S C、S S W、巡回指導員の活用 ④ 関係機関、保護者との連携	○ 月1回の職員会議後に情報共有する場を設定した。「地域支援体制整備事業」を活用し、会津支援学校竹田校より2名の教員が派遣され、専門的な視点で子どもの様子を観察していただくとともに担任への指導助言をいただいた。 ○ 毎週実施の生徒指導委員会において、校内支援の必要な生徒と支援方法の情報交換を定期的、臨時的に行った。 ○ 特別支援教育センターの職員を招いて、支援に関する校内研修会を行った。 ○ 支援員や S C、S S W の方が、児童・生徒に一生懸命関わって下さった。	A

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
2	豊かな心を身につける	(1)自然との関わりや地域の人々との交流等により、自分・他者・社会・自然を大切に作る豊かな心を育てる。	① 学校教育活動全体を通して自然に触れる活動の推進 ② 町の諸行事への積極的参加 ③ ボランティア活動、施設訪問等の定期的計画の推進 (ふるさと教育の充実と重複もある。)	○ 自然に親しもう、森林環境学習、金山町合併70周年記念式典参加、交通安全鼓笛パレード等、様々な行事において地域の自然や人との関わる機会がもてた。 ○ 職業体験や資源回収に参加し、地域と交流する機会を設けた。 ○ 森林環境学習やスキー教室を通して、自然や地域との関わりをもち、他者・自然を大切にする心を育てた。 ○ 除雪ボランティアなど、町内でボランティア活動を行った。	A
		(2)「金山町いじめ防止基本方針」に基づき、不登校・いじめの絶無に向けた取組を推進する。	① いじめ問題対策協議会の実施 ② 定期的な教育相談、チャンス相談、ケース会議、アンケートの実施 ③ スクールカウンセラー(S C)スクールソーシャルワーカー(S S W)の活用	○ 定期的なアンケートや教育相談を実施し、不登校ゼロ、いじめ見逃しゼロの達成に努めた。健康福祉課やS S Wとの連携による保護者との定期相談も行い、不登校傾向児童の改善に努めた。 ○ 毎週の生徒指導委員会では方針の確認と情報交換を行い、共通理解のもとに指導することができ、不登校・いじめの未然防止につながった。S Cとも効果的に連携が図れた。	A
		(3)特別の教科道徳の授業の充実を図り、心の健康、思いやりや命を大切にする心を育てる。	① 各教科等との関連を図った道徳年間指導計画の工夫 ② 道徳授業年間35時間の完全実施と充実 ③ 友達のよさを見つけ、認め合う活動の場と機会の設定 ④ 命を大切にする単元の設定	○ 2学期末の授業参観では、すべての学級で道徳の授業を行った。現職教育では、道徳科の授業を提供し、職員間で指導について話し合うとともに指導主事による指導助言をいただく機会も設けた。 ○ 年間指導計画、全体計画別葉により、学校教育活動全体を通じた指導が実践された。 ○ 評価については継続的な研修が必要である。	B
		(4)子どもの読書活動を推進し、豊かな感性を育成する。	① 読書タイムの設定 ② ブックチャレンジ、ビブリオバトル等の実施 ③ 読み聞かせの実施 ④ 新刊図書の購入 ⑤ 図書紹介の工夫	○ すべての実践事項を実施した。教員による読み聞かせも行い、児童の読書への興味関心を高めることができた。新刊図書の購入は、迅速に行うことができず、児童への提供が遅れることがあった。 ○ 朝の読書時間により読書に親しむ習慣を培っている。できれば、司書補の配置により、読み聞かせや図書館運営の充実、ビブリオバトルの実施を図りたい。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
		(5)あいさつ運動を通して、明るい学校作りを推進する。	① あいさつのよさや価値の理解 ② 教科、道徳、特別活動などの学校教育のあらゆる場や機会を捉えたあいさつの励行 ③ 下校後の家庭や地域社会におけるあいさつの実践化	○ あいさつの大切さについて啓発をしているが、高学年になるにつれて、声の大きさや明るさが足りないと感じる。今後も率先垂範を意識し、継続した指導が必要である。 ○ 「あいさつ」は、校内や地域でもしっかりできていると捉えている。今後も、さわやかな挨拶ができるよう継続した指導を行いたい。	A
3	健康な体の育成	(1)保健体育の授業や課外活動の充実を図り、運動能力の向上やスポーツに親しむ心を育てる。	① 新体力テストによる児童生徒の実態把握と体力向上 ② 教科体育、部活動、大会、記録会、業間活動における運動の楽しさとチャレンジ精神の体得 ③ 特色ある各学校の取り組み ・かねやま小学校(年間を通した業間運動タイム) ・金山中学校(パワーアップタイム) ④ 保健だよりの発行	○ 一年を通して、朝の運動(持久走、縄跳び)をし、記録会を実施している。取組に対しても目標をもたせている。 ○ 結果を分析し、実態を把握し、保健体育の授業や全校駅伝、部活動を通して、計画的に体力向上に努めた。結果、持久力の数値が向上した。 ○ 保健だよりを毎月発行し、心身の健康増進と維持増進を促した。	A
		(2)交通事故防止や身の危険の回避など、安全な生活の基本を身につけさせる。	① 防犯教室、交通教室、避難訓練の実施 ② 学校行事における危険箇所や危険行為についての指導の充実 ③ 連休や長期休業前の重点的な指導の充実	○ 駐在所や消防署の協力により、計画通り実施した。 ○ 月1回の安全点検だけでなく、管理職も校舎内外の点検を行い、事故の未然防止に努めた。 ○ 必要な指導を計画的に行うとともに、日ごろから機会をとらえ指導を進めた。結果、交通事故等を防ぐことに繋がった。	A
		(3)学校給食を中心とした食育の充実と家庭との連携による「早寝・早起き・朝ご飯」を推進する。	① 学校医、学校歯科医、保健師、PTA代表による学校保健委員会の開催 ② 給食指導の充実 ③ 給食だよりの発行 ④ 「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進 ⑤ 食育の充実	○ 町学校保健委員会において自校の保健状況を把握し、子ども達の健康増進に努めた。 ○ 県の朝食を見直そう週間にあわせ、養護教諭や保健委員による啓発活動を行った。期間中の摂取率は100%であった。 ○ 栄養技師、養護教諭による指導を、年間を通じて計画的に行い、保健指導や食育を充実させた。 ○ 学校保健委員会を開き現状を確認するとともに、学校・家庭の役割を確認した。	A

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
4	ふるさと教育の充実	(1)郷土の自然・歴史・文化等にふれる活動を通して、郷土のよさを理解し、郷土を大切にすることを育成する。	① 金山町の自然、歴史、文化、産業に関わることができる「ふるさと教育」の推進 ② 地域の行事への積極的参加 ③ 地域の文化財に触れる活動の推進 ④ 地域の人との交流 ⑤ 金山町の特産物を使ったものづくり体験	○ 郷土学習として、米・野菜作りや昔語りを楽しんだり、地域の商店や工場、施設を訪問したりして、地域住民の協力を得て、地域を知り良さを味わう活動を数多く実施した。また、湖水まつりや町文化祭、ごっつおまつりなどにも積極的に参加した。 ○ 各種地域イベントへの参加の奨励、資源回収、職業体験など、地域と交流する機会を意図的に設けた。 ○ 地域文化財に関する講師の方を招いてお話を聞き、町内の文化財に触れる機会を設けた。	B
		(2) 地域に支えられるだけでなく、積極的に地域と関わり、成果を発信し、地域に貢献しようとする児童生徒を育成する。	① 地域との合同運動会の開催 ② 学習発表会や金中祭での発表 ③ 私の言いたいこと発表会の推進 ④ 町長さんに質問をする会の取り組み ⑤ 総合的な学習の時間の活用	○ 統合後、初めての運動会を地域の方々の参加や観覧を促した。かねやまフェスティバルも地域の方々に参加や参観していただいた。しかし、校歌の鼓笛演奏は行っただが、校歌を披露する機会がなかった。 ○ 地域の方を招いて金中祭を開催し、ご来場いただいた多くの方々に学習の成果を発信した。 ○ 「町長さんに質問する会」を開催し、地域の課題を主体的に捉えさせた。 ○ 地域の人に開かれた行事が良い。 ○ 地域住民として、もっと積極的に参加したいと思う。 ○ 地域の人達も参加しやすい雰囲気作りができていて良かった。	A
		(3)地域の素材の教材化を進め、地域の人材の積極的な活用を図る。	① 地域に残る歴史遺産の教材化 ② 地域の人材の積極的な活用 ・稲作体験 ・ブナ林観察 ・書写指導 ・スキー指導 ・木工作品作り ・森林学習等	○ 地域人材の活用においては、木工工作や稲作体験、スキー指導などは行っているが、ブナ林観察や書写指導においては活用が図れなかった。次年度は、農林課と連携して大塩の森林環境の保全について見学学習を取り入れる予定である。 ○ 社会歴史講座で、日本考古学協会の方を招いて地域に残る歴史遺産について理解を深めることができた。 ○ 金山スキークラブの方々のご指導によるスキー教室を実施できた。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
		(4) 特別養護老人ホーム等との交流やボランティア活動の推進を図る。	① かねやまホームや横田デイサービスセンターへの訪問交流 ② 中学校における除雪ボランティアや職場体験 ③ 通学路クリーン活動	○ 鼓笛パレードにおいてかねやまホームへ、中学年が横田デイサービスを訪問できた。 ○ 除雪ボランティアを行い地域に貢献できる生徒の育成に努めた。 ○ 町内でのフィールドワーク、町外での職業体験を行い、地域と交流する機会を設けた。	A
		(5) 開かれた学校づくりに努め、地域との連携を一層高め、児童生徒の地域行事への積極的な参加や人的交流を推進する。	① 学校教育活動の公開（学校行事や授業の参観） ② 校長・教頭を始めとする教職員の地域行事への積極的な参加 ③ 児童生徒のPTA行事や地区行事への積極的な参加の呼びかけ ④ 学校だより等の配布を地域社会まで拡大	○ 運動会や学習発表会を地域の方に公開し、地域の学校として教育活動をした。 ○ 湖水まつりや町文化祭、ごっつおまつりなどの行事にも顔を出し、児童の地域とのかかわりについて把握した。 ○ 授業参観や文化祭、学校へ行こう週間を活用し、開かれた学校づくりに努めた。 ○ HPを活用した情報発信に努めた。学校だよりを町内全戸に配布している。 ○ ふくしま駅伝への参加を積極的に促し、2名の生徒がランナーとして出場した。 ○ 「学校だより」等が町民全体まで配布され、学校の様子がよく分かるようになった。	A
5	情報化・国際化教育の充実	(1) 電子黒板、コンピュータ等のICTの有効活用を中心に、情報化に対応する教育を推進する。	① 各教科指導における日常的な活用 ・電子黒板の活用 ・タブレット端末の活用 ② 児童生徒の情報活用能力の育成 ・情報リテラシーの推進 ・研修や講習会の実施 ③ ICT機器等の適正な管理及び運用	○ 電子黒板やタブレット端末を有効に活用した授業が増えてきた。しかし、能力差も大きく、活用の差も見られる。ICT支援員を活用し、職員の技能の向上と児童の情報モラルの向上を推進していきたい。 ○ ICT支援員の活用によりタブレットや電子黒板を授業で積極的に活用することができた。 ○ 情報モラルについて、外部講師の活用及び日頃の教育活動において指導した。	B
		(2) 小学校の英語教育の導入に伴い、ALTや地域の人材を活用し、英語や国際理解教育を推進する。	① 小学校におけるALTを活用した外国語（英語）活動の実施 ② 中学校英語科でのALTの有効活用 ③ 中学校でのブリティッシュヒルズ研修の実施	○ 保小中で同じALTが指導することにより、児童生徒の安心感だけでなく、学ぶ姿勢も高まっている。今後もディラン先生の雇用を継続してほしい。 ○ ALTの授業での活用により、授業の充実を図ることで英語教育の推進を図っている。 ○ 様々な教育活動をALTと生徒がともに行うことで、国際理解教育に繋がっている。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
6	SDGsの取り組みの推進	(1) 各教科や学校教育全体で、SDGsに関連のあるものを意識的に取り上げるにより、SDGsに関心を持ち、持続可能な社会の作り手になろうとする意欲・態度を育成する。	① 各教科、総合的な学習の時間でのSDGsとの関連 ② 学校行事、児童会生徒会等でSDGsについての取り上げ ③ SDGsに繋がる具体的な活動の実践	○ 各種行事や授業等で取り上げられる場合は、意識している。ビジョンにSDGsの目標と学校の教育活動を位置づけているが、活用を図ることが難しい場面も見られる。次年度は、外部講師なども活用して取り組めるかどうか検討中である。 ○ 生徒会による牛乳パックの回収や、再生紙の印刷物への活用により環境への関心を高める指導を行っている。 ○ SDGs等の年間指導計画を見直すことで、学校教育活動全体で実践できるようにしたい。 ○ 地球温暖化をはじめ環境問題については、理科や社会科の教科指導でのみであった。その他の場と機会を活用し、理解を深めさせたい。 ○ 「給食を残さない」「教室のゴミ箱をプラと可燃ゴミに分ける」など、小さなことでも良いので、SDGsへの気付きになる活動や声かけをしてほしい。	B
		(2) 環境教育の指導計画を作成し、学校全体で取り組む。	① 環境教育とSDGsとの関連 ② 生活科、理科、社会科、総合的な学習、学校行事、児童会、生徒会活動等への環境教育の位置づけ ③ 実践に結びつく指導計画の作成	○ 各教科の教育課程に位置づけ、意識して指導していきたい。 ○ 環境教育の指導計画を見直すことで、教育活動全体の中で実践できるようにしたい。	B
		(3) 「ふくしまゼロカーボン宣言」事業参加など、学校独自の具体的な活動を通して持続可能な社会を実現しようとする意欲を高める。	① 「ふくしまゼロカーボン宣言」への参加 ② 森林教育の実施（ブナ林や間伐材の学習） ③ 放射線教育指導資料「あとむくん」の活用 ④ 資源回収の実施 ⑤ 省エネへの意識と実践の呼びかけ	○ 森林教育は、自然に親しもうとして惣山登山や木工教室を行った。 ○ 資源回収は、統合前は別日で実施していたが、統合して川口、横田地区で同日に開催した。 ○ ふくしまゼロカーボン宣言については、生徒会が中心となり、節水や節電などの省エネルギーを呼びかけている。 ○ 毎年ではないが、通勤において放射線教育を行っている。 ○ 森林環境学習、資源回収を実施し、持続可能な社会を実現しようとする意欲を高めている。 ○ 資源回収行事前に、なぜその活動をやるのかという事前指導をして頂きたい。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
7	学校・家庭・地域社会の連携	(1)学校活動全体を通して、家庭・地域との連携を図り、児童生徒の健全育成に努める。	① 学年通信等の発行 ② 学校行事の地域との連携 ③ 青少年健全育成町民会議との連携 ④ 「私の言いたいこと発表会」への参加	○ 各学年とも月2回程度の割合で学年通信を発行した。「私の言いたいこと発表会」においては、中学校とも連携を図り、児童の発表場面を考えていきたい。 ○ 学校だよりや学年通信を発行するとともに、定期的にホームページを更新し、積極的に学校の様子を発信している。	B
		(2)家庭との連携により、児童生徒一人一人の生徒指導の充実に努める。	① 学校だより、学年通信などの活用 ② 学級懇談、三者面談等の実施 ③ 家庭訪問の実施 ④ 連絡ノートの活用	○ 家庭訪問は、今年度から居所確認とし、希望者において実施した。今後も電話連絡や連絡帳を活用した連絡を密にし、重要な案件は対面での伝達を基本としていく。 ○ 授業参観や保護者会、三者面談を通して家庭との連携を図り、情報交換を共有して生徒指導の充実に努めている。	A
		(3)開かれた学校づくりに努め、地域行事等に積極的に参加し、地域の一員としての意識を高める。	① PTA活動奉仕作業、PTA活動への積極的参加 ② 湖水まつり、ごつつおまつり、文化祭、雪まつり、資源回収等地域行事への参加 ③ 地域ボランティアへの協力	○ 今年度は図書室改修が予定されていたため、PTAの奉仕作業にそのお手伝いを予定していたが、職員で行うことができた。地域行事への職員の参加については、個人の差が大きい。 ○ 生徒もPTA奉仕作業に積極的に参加している。 ○ 生徒へ町内の各種イベントへの参加を促している。 ○ 資源回収を意欲的に行い、地域の一員としての意識を高めることができた。 ○ 地域ボランティアへの参加については、その意義を伝えながら繰り返し促していきたい。	B
8	家庭への経済的支援	(1)地域一体型ふるさと教育事業を通して、家庭への支援の充実に努める。	① 給食、入学準備、修学旅行、教材等、教育に係る費用の支援 ② 中学生、高校生への各種検定の支援 ③ スキーリフト代の支援 ④ 部活動支援	○ 統合に向けて全児童分の運動着を準備していただき、運動会等の行事で一つの学校であることを実感することができた。金山町ならではの大変手厚い支援に感謝するとともに、今後も未来の担い手である児童への援助をお願いしたい。 ○ 町の手厚い支援を受け、修学旅行等の行事や各種検定など、教育活動がとても充実している。 ○ 部活動の地域移行については、部活動指導員の配置も含め町教委と連携を図り体制を構築していく。	A

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
8	家庭への経済的支援	(2)地域一体型ふるさと教育推進委員会の活性化を図り、新たな事業の検討を進める。	① 地域一体型ふるさと教育推進委員会の定期開催 ② 学力向上支援事業 書道教室、森林学習、パソコン教室、夏休み学習塾、冬休み学習塾 ③ 体験学習事業 ④ スポーツ講習会事業 ・水泳 ・バドミントン ⑤ 地域みらい留学事業 ⑥ 高校企業説明会	○ 参加する児童としない児童と差が出てしまったが、児童のために様々な活動を企画・運営していただき児童が地域の中で地域の方々とふれあい、多様な経験をすることができている。 ○ 学校の意向を踏まえて、各事業を展開している。今後も意思疎通を図りながら推進するとともに、学校行事とは切り離すことで教職員の負担軽減に繋げたい。	A
9	県立川口高等学校への支援	(1)川口高校の魅力向上に協力し、学校の教育活動や生徒募集等について、川口高校や関係機関との連携を深め、支援に努める。	① 町教育委員会による桐径会専門委員会事務局担当 ② 会津域内関係市町村教育委員会及び各中学校訪問による川口高校のPR ③ 友好都市・埼玉県羽生市と埼玉県鴻巣市の各教育委員会及び各中学校訪問による川口高校のPR ④ 福島県教育委員会との懇談を通じた川口高校の本校存続への取り組み ⑤ 中高連携の事業を通じた川口高校の魅力発信 ⑥ 桐径会を通して、教育活動、寄宿舎運営、通学等に係る財政的な支援（補助金の交付） ⑦ 町営の若桐寮の運営管理（平成26年4月1日開始） ⑧ 地域みらい留学プロジェクトへの参加支援	○ 鴻巣市教育実践発表大会に参加させていただき、川口高校への進学をアピールすることができた。 ○ 町合併70周年記念式典において、鴻巣市長様と懇談することができ、友好都市関係づくりに貢献できた。 ○ 中高連携により、川口高校訪問を2学年で実施し、実際の授業を参観・参加させていただくことで、川口高校の魅力を生徒へ伝え、理解を深めることができている。R7年度は2学年不在のため実施していない。 ○ 3年生を対象とした体験入学への参加を、積極的に促した。 ○ とてもよく頑張っていると思う。	B

【基本目標 2. 生きがいに満ちた生涯学習の充実（生涯学習）についての点検・評価】

※ 評価は、A B C D の 4 段階

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
1	中央公民館及び地区公民館活動への支援	(1) 公民館を始め、芸能伝承館、歴史民俗資料館等の社会教育施設が活用しやすいよう整備し、管理運営に努める。	① 公民館事業連絡調整会議 ② 公民館毎の運営審議会 ③ 川口公民館を除いた 3 地区公民館は、非常勤の館長による管理運営（沼沢は不在） ④ 会津教育事務所社会教育主事による公民館訪問を通しての施設・設備の整備と運営に関する研修	○ 地区によって差はあるものの、地区の工夫によって運営できていると思う。	B
		(2) 公民館ごとに地域の特性やニーズに基づいた特色ある活動を推進する。	① 各地区の公民館報の発行（本名、横田、沼沢） ② 金山町文化祭 ③ 小学校運動会への協力 ④ 趣味の講座、各種スポーツ大会、展示会などの開催	○ 町文化祭は、活気があり予想以上に良くできた。 ○ 「金山町文化祭」も町全体の取り組みで良かった。	A
		(3) 地域の人材を活用し、放課後子ども教室「川口ゆうがたクラブ」と「よこたふれあい教室」を推進する。	① 川口ゆうがたクラブ ・安全管理員の適正配置 ② よこたふれあい教室 ・安全管理員の適正配置	○ 利用する児童が多く、役に立っていることが分かった。 ○ 町の大人と児童が触れ合う良い機会になっている。 ○ 子供たちの安全に配慮して、よく運営されている。	A
	生涯学習団体の育成と支援	(1) 町文化協会との連携を図り、各団体の支援を進め、活動の充実を図る。	① 「金山町宝生会」「昔語りの会」「やまひだ」等文化協会の支援 ② 高齢化する各種団体への支援 ③ 新しい活動団体の創出と支援	○ 各団体の高齢化と、加入者の減少は、大きな課題である。 ○ 活発とはいえないまでも、各団体でよく持続できていると思う。	B
		(2) こまどり学級、こぶし学級等、町民のニーズに基づく学習の場を充実させる。	① 高齢者女性教育「こまどり学級」の開催 ② 高齢者教育「こぶし学級」の開催	○ 毎回いろいろな内容を工夫して開催されている。参加者も楽しんでいる。	A
3	変化する学習ニーズへの対応	(1) 情報化社会に対応するため情報機器を使った各種講習会の実施や図書の実質、情報の提供に努める。	① スマートフォン、タブレット体験講習会 ② 県立図書館との連携による「あづま号」図書の利用	○ 図書コーナーには、興味ある本が多く、役立っている。 ○ 借りるときの教育委員会の方の対応も親切で、とても良い。 ○ 講演会も持続して開催されている。	A
		(2) 町民の要請に応じ、諸講演会や各種講座などの充実を図る。	① 各種講演会の実施 ② 健康づくり出前講座の実施 ③ 各種ものづくり講座の実施「マタタビ細工」等	○ 町民の楽しみでもあり、生きがいであり、どれも非常に良い企画ばかりである。 ○ 「マタタビ細工」など、とても人気があり、定着して素晴らしい。	A

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
		(3) 女性団体の活動の実態把握や支援、リーダーの養成や講座等の学習機会づくりなど、女性教育を推進する。	① 地区女性団体学級 (花いっぱい運動、ゴミ減量化運動、地区婦人会自主活動など)	○ 各地区で少人数ながら「花いっぱい運動」など、よく続けていて、素晴らしいと感じる。	B
4	青年層の取り込み	(1) 公民館や青少年健全育成町民会議等との連携を図り、青少年教育の充実を図る。	① 青少年教育として、少年少女球技大会、私の言いたいこと発表会、こんにちは先輩、学習塾、こめらっこ広場、放課後子ども教室などの開催	○ 人数が少なくなっているなかで、持続していくこと自体が大変だと思う。	B
		(2) ボランティア活動やスポーツ的行事、文化活動等、青年層の社会的活動の場の拡充を図る。	① 青年層を主体としたボランティア活動の推進 ② 軽音楽活動、スポーツ活動等への積極的な支援	○ 青年そのものがあまりいないので、推進は難しいと思う。青年に偏らなくてもよいと思う。	B
5	誰もが気軽に参加できる環境の構築	(1) 運動会を始め、学校文化祭や教科指導、総合的な学習の時間における地区民の参加の機会を拡充する。	① 学校行事、授業参観等の地域への公開 ② 学習発表会、祭り、文化祭の地区への公開 ③ 住民が参加できる運動会の開催 ④ 学校だよりの発行と地区民への回覧実施 ⑤ 地区民との協力による奉仕作業 ⑥ 町民ボランティアによる昔語りや民具の紹介説明の実施	○ 横田小と金山小が統合になり、運動会などわだかまりなく、元気に活動できて素晴らしい。	A
		(2) 誰でも気軽に参加でき、楽しめる事業を積極的に計画実施する。	① 町民ウォーキング、町民登山等の実施 ② 各種展示会、趣味の講座の開催 ③ 演芸会などの実施 ④ 古文書教室の実施	○ 「かねやま広報」等でよく趣味の講座の開催などが募集されてよいと思う。	B
		(3) 地域のよさを理解し、地域に誇りを持つ子どもの育成のため、地域行事、イベントに対して、子どもたちの積極的な参加を勧める。	① 私の言いたいこと発表会への積極的な参加 ② 球技大会、スキー・スノーボード教室、こめらっこ広場、山っ子スクールへの参加 ③ こんにちは先輩、夏休み冬休み学習塾、習い事教室等の開催と積極的な参加	○ 子どもの人数がどんどん少なくなる中、よく持続できていると思うが、内容の見直しも必要と思う。	B

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
6	生涯学習施設の充実・既存施設の利活用	(1) 公民館を始め芸術伝承館、御神楽館、町民体育館、開発センター図書室等の社会教育施設の整備、管理運営に努める。	① 公民館事業連絡調整会議 ② 公民館毎の運営審議会 ③ 川口公民館を除いた3地区公民館は、非常勤の館長による管理運営（沼沢は不在） ④ 中央公民館図書室と横田公民館図書室の充実と運営 ⑤ 文化協会総合発表会の開催	○ 山入歌舞伎の中止は大変残念です。 ○ 地区の高齢化が進んでいて催し物に参加することもなかなか難しいと思う。施策そのものの見直しが必要では。	B
7	学習成果の活用の促進・発表の場の創出	(1) 発表会や展示会を積極的に開催し、各種活動団体の発表の場とし、活性化を図る。	① 金山町文化協会総合発表会の開催 ② 会津西部総合演芸大会への参加 ③ 金山町文化祭への参加 ④ 作品展示会等の開催 ⑤ 奥会津金山手しごと展	○ どれも活気のある行事になっている。継続を。 ○ 参加する人も参加作品も多く、みおりMIORIの展示などされていると思う。	A

【基本目標３．町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実（生涯スポーツ）】についての点検・評価】

※ 評価は、ＡＢＣＤの４段階

No	重要施策	重要事項	具体的な実選事項	反省・課題	評価
1	スポーツを通じた健康の増進と生きがいづくり	(1) スポーツ協会やスポーツ推進委員との連携を深め、町民のニーズに即した生涯スポーツ活動の充実と健康づくりを推進する。	① スポーツ協会の９の部による活動（野球・ソフトボール、バレーボール、卓球、テニス、グラウンド・ゴルフ、ゲートボール、バドミントン、ランニング、スポーツ少年団） ② スポーツ少年団の２つの部による活動（剣道、スキー） ③ スポーツ推進委員１０名の活動 ④ 各種大会、研修会の開催 ・第８回金山町妖精の里グラウンド・ゴルフ大会 ⑤ 町民ウォーキング・町民登山・スキースノーボード教室の開催 ⑥ ピラティス教室の開催	○ 人数が少なくなる中、よく持続できていると思う。 ○ 実施内容をしばっていくことも必要ではないかと思う。	B
2	スポーツ団体への活動支援	(1) 町内の各スポーツ団体が十分に活動できるように環境整備に努めると共に、各種大会に積極的に参加できるよう支援する。	① 町内各スポーツ団体による大会の開催 ② 第１９回市町村対抗福島県軟式野球大会への参加 ③ 第３７回ふくしま駅伝へ「希望ふくしまチーム」として参加 ④ 第７８回地域スポーツ大会への参加	○ 「希望ふくしまチーム」参加のために、本当によく練習をしている姿を見かけた。	A
3	新たなスポーツ活動のあり方の検討	(1) 気軽にスポーツに親しんでもらえるスポーツの推進を図る。	① 町の体育施設のスポーツ器具や備品の充実 ② 高齢者に合った運動の推進 ③ ピラティス教室の実施	○ 「介護予防運動教室」「ピラティス」は、身体の健康と、みんなに会うことで心の健康にも有益な場である。 ○ 高齢者はその場所に行くのも大変な人が多くなっているのではないかな。	B
4	リーダーとなる人材の育成	(1) スポーツ推進委員会の活動の充実と若い人材の育成を図る。	① スポーツ推進委員会の活動の充実 ② 若い人材の発掘とリーダーの育成 ③ 青年層のスポーツの拡充	○ 若者から高齢者まで多くの年代で利用していると思う。 ○ 若い人にこだわらず、ある程度の年齢の人がリーダーになるのもよいと思う。	B
5	スポーツ施設の利活用の検討・維持改修	(1) 町民体育館、地区体育館、グラウンド等の施設を活用しやすい状態に保つための整備と管理に努める。	① 町の体育施設の管理（金山町民体育館、大塩地区体育館、御神楽館、玉梨地区体育館、大塩運動場と管理棟、中川グラウンド、水沼地区グラウンド、玉梨地区グラウンド、山入芸能伝承館、大塩テニスコート、山入地区グラウンド） ② 町営グラウンド・ゴルフ場の整備と活用	○ 広い地域の整備を安全確保のために良くできていると感じた。	B

【基本目標4. 次世代につなぐ伝統文化の振興（伝統・文化）についての点検・評価】

※ 評価は、A B C Dの4段階

No	重点施策	重点事項	具体的な実践事項	反省・課題	評価
1	文化団体の支援・育成	(1) 文化協会や文化活動団体・サークルの活動を支援し、文化活動の活性化を図る。	① 文化協会団体数18、会員数145名、事務局は社会教育指導員が担当 ② 会津西部巡回美術展 ③ 文芸誌「やまひだ」第50号の発行 ④ 第27回町文化協会総合発表会の開催	○ 高齢化による文化団体の統廃合も考えていかなくてはならないのでは。	B
2	文化芸術にふれ、活動する機会の提供	(1) 地区文化祭、文化講演会、各種文化イベントを積極的に開催し、優れた芸術・文化にふれるなど、町民の文化活動への参加を推進する。	① 中央公民館主催による文化祭 ② 演劇、演奏会等文化イベントの開催 ・ファミリーシアター公演 ・御神楽寄席	○ 御神楽寄席に中高生の見学はとても良かった。 ○ 準備が大変な中、よく持続できていると感じた。	A
3	文化財の保存・活用	(1) 文化財調査委員会の定期的な開催と日常活動を通じた文化財の調査と保存に努める。	① 金山町文化財調査委員は5名 ② 町文化財の調査・保存活動の推進 ③ 金山町の民具の調査 福島大学・県立博物館の協力による民具調査 ④ 文化財防火点検 ・旧五十島家住宅(中川地区) ・大悲堂(中川地区) ⑤ 道の駅「奥会津かねやま」への文化財資料の展示 ⑥ 玉縄城跡登山道の点検・整備 ⑦ 中丸城跡登山道の点検・整備 ⑧ 文化財案内板の点検・整備 ⑨ 旧五十島家住宅保存作業 ⑩ 宮崎遺跡の調査研究 ⑪ 文化財保存活用指導員による土器調査	○ 五十島家の内部がより整備され清潔感も増したと思う。 ○ 毎年確実に実施されていると感じた。 ○ 町民の関心を高めていく方法も必要と思う。	B
4	後継者の育成	(1) 後継者の育成に努め、伝統文化の継承を図る。	① 各地区に残る伝統文化の保存継承と後継者の育成 ② 各地区の伝統行事の継承 ③ ものづくり教室の推進	○ 若い人や子どもを含めた活動が疎かなように思う。 ○ 難しい状況だが、学校に協力を願ってみてもよいと思う。	B
5	文化や歴史への興味喚起	(1) 町にある文化財の新たな情報の収集や調査研究、町民への広報活動等に努める。	① 県指定文化財2、町指定文化財2の確認と台帳整理 ② 広報紙への掲載による情報発信 ③ 福島大学、県立博物館等との連携による調査・保存活動の推進 ④ 「村の肖像」プロジェクトの推進と継続 ⑤ 文化財資料「未来に伝えたい金山の宝」の活用 ⑥ 町に残る古文書等の保存計画の作成	○ 確実に実施されていると思うが、町民への広報活動が難しいと思う。	B

Ⅲ 教育行政外部評価委員の感想及び意見

1 教育委員会の活動について

- 町雇用の教員が十分に配置されている。そのため山間部の学校でも恵まれた教育環境になっている。
- 文化祭の実施や文化協会への支援は大きかった。また、相談しやすい点も有難く思う。
- 毎回のさまざまな行事の準備等、早くから丁寧に行われていて本当に感謝します。
- 教育委員会の事業、施策を実施されありがとうございます。

2 学校教育の分野について

- 祖父母学級のときの場づくり(お茶席のことですが)で、教職員挙げての身軽な動きに、とても感心・感謝しました。
- 支援員の方、SSWの方が、校内のみならず「放課後子ども教室」にも参加して、児童と全力で触れ合っておられ、敬服しました。
- ITの時代ですが、文字の筆順など基本的なことも大切にできる児童になってほしいです。
- 人数が減っていく中で、他校間交流や中学、高校との交流も工夫されているので、これからもよい流れを作ってほしい。

3 社会教育の分野について

- 文化祭が予想以上の盛況で、大成功と言えると思います。子どもや親時代の若い人の活躍(裏方も含め)が目立ち、世代間の協力の大切さを実感しました。
- 中川・宮崎地区の歳之神は、毎年只見線の運行に合わせて実施しています。伝統行事と新しい発信の融合で素晴らしいと思います。夏の盆踊り、歳之神、百万遍、節分に関する諸行事など、伝統行事の記憶を子ども達に残していくことを大切にしたいです。
- 町全体の高齢化が加速している状況なので、青年部等とあまり年齢による施策を細かく分けないで、町民全体で楽しめる内容に移行していったらどうかと考える。

金山町教育委員会の事務管理及び執行状況の点検・評価要綱

金山町教育委員会

1 趣 旨

金山町教育委員会は、毎年度、教育委員会の事務管理や当該年度の重点施策の取り組み状況について、点検・評価を行い、より効果的な教育行政の推進に努める。

なお、点検・評価の結果については、地方教育行政の組織および運営に関する法律の定めるところにより、報告書を作成、議会に報告するとともに、公表することにより町民の理解を深め、信頼される教育行政の推進に役立てる。

2 実施方法

(1) 点検・評価対象

点検・評価の対象は、当該年度の「教育委員会の活動状況」及び「金山町教育委員会重点施策」とする。

(2) 評価期間・時期

点検・評価の期間は、当該年度とし、時期は、年度末とする。

(3) 点検・評価者

① 点検・評価は、教育委員会事務局が行う。

② 教育委員会事務局が点検・評価を行うにあたっては「教育行政外部評価委員会」を設置し、学識経験者の意見を聴取する。

③ 学校教育の分野における取組状況のまとめについては、各学校からの評価報告を活かす。

(4) 報告書の作成・報告

教育委員会事務局が点検・評価を実施した後、その結果を報告書に取りまとめ、教育委員会の審議・承認を得て金山町議会に提出する。

(5) 公表

報告書は、広報誌等を通して広く町民に公表する。

3 教育行政外部評価委員会

(1) 教育行政外部評価委員会の委員は、別表 1 の委員をもって充てる。

(2) 委員の任期は、委嘱した日から 1 年とする。

4 議会への報告

(1) 報告書の内容は、「教育委員会の活動状況」及び「金山町教育委員会重点施策」とする。

(2) 報告の時期は、次年度の 6 月定例会とする。

5 点検・評価の流れ

(1) 当該年度の教育委員会重点施策の作成

(2) 施策に向けた取組み

(3) 日常の点検・評価

(4) 取組状況のまとめ（学校教育の分野については、各学校から町教委への報告資料を参考とする。）

(5) 教育行政外部評価委員会の開催と有識者からの意見聴取

(6) 教育委員会事務局における点検・評価及び報告書の作成

(7) 教育委員会の審議・承認

(8) 金山町議会（6 月定例会）へ報告

(9) 町民への公表（広報誌掲載、報告書の閲覧）

【点検・評価内容】

1 教育委員会の活動状況

- (1) 教育委員と任期
- (2) 教育委員会の開催状況
- (3) 教育委員会の開催日及び審議内容
- (4) 教育委員の主な活動
- (5) 教育委員会広報活動
- (6) 教育委員会事務局体制
- (7) 活動の反省と今後に向けて

2 金山教育委員会重点施策

- (1) 郷土を担う個性豊かでたくましい青少年の育成(学校教育)
- (2) 生きがいに満ちた生涯学習の充実(生涯学習)
- (3) 町民の活力を育む生涯スポーツ活動の充実(生涯スポーツ)
- (4) 次世代につなぐ伝統文化の振興(伝統文化)

【教育行政外部評価委員会】

- 点検・評価要綱に基づき、令和7年度の教育行政外部評価委員を次の方に委嘱する。

(別表1)

No.	氏 名	性別	備 考
1	山 口 京 子	女	教育委員経験者代表
2	滝 沢 良 一	男	学識経験者代表
3	長 谷 川 金 助	男	金山町区長会代表
4	渡 邊 幸 子	女	学識経験者女性代表
5	菅 家 友 一	男	金山町連P代表

- 委嘱期間は、令和7年4月1日から令和8年3月31日までとする。

【法 的 根 拠】

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検・評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。